

事前審査（ヒアリング）のための報告書のチェックシート …（RC 適用）

ヒアリング時の提出報告書が不備のために、その指摘に時間を取られ、肝心の評価の検討が損なわれることがあります。下記に記載忘れなど指摘の多い項目を記しておきます。提出前に下記チェック項目に記載ページを入れて必ずチェックしてください。 注記：チェックもれは受付できません。

大項目	中項目	小項目	チェック項目	記載ページ
評価申込書	業務受託者、診断者		担当者名の記載	
概要表	診断者名		評価申込書の記載と同じか	
	診断結果		必要のない階を記載していないか ペントハウスの診断結果の記載	
	その他		本体以外（バルコニー、CB 壁、水槽、EXP. J、液状化等）の処置を要する事項を記載	
報告書	建築概要	建物名称	建物名称は正しいか、延床面積の記載	
		建物高さ	軒高、最高高さの記載	
	建物図面	配置図	方位、対象建物をマーク、道路	
		平面図	X・Y 方向及び CB 壁、雑壁等の記載	
		立面図	屋上突出部、貯水槽等の記載	
		伏図（右記、平面図で可）	工区分、X・Y 方向重心・剛心の記載、EXP. J の位置・間隔、隣接建物の記載	
		軸組図	壁開口の位置・寸法等の記載	
		部材リスト	設計図利用の場合、読める図面か	
	現地調査結果		診断者の所見の記載、コンクリートコアの採取位置と方向	
	診断方針	判定指標	Iso、 C_{T0} ・SD の記載	
		外力分布による補正係数	採用式の明記	
		計算ソフト	バージョン及び評価番号の記載	
		モデル化	RC 壁の扱い、軸力及び変動軸力、偏心率、剛重比の計算方法、袖壁の取り扱い、ゾーニング等の記述	
	一般事項	材料強度	コンクリート、鋼材について記載	
		床荷重表	仮定荷重、床荷重表、単位床面積当りの重量の記載	
		柱軸力	計算方法の記載（立体、支配面積）	
	経年指標 形状指標	経年指標 T	T 指標計算表の程度項目への○印の記入	
		形状指標 SD	グレード決定の算定計算	
	診断結果	電算出力	採用結果についてのマーク	
		C_T -F 関係図	C_T 値の記載で文字の重なりはないか	
		破壊モード図	極脆性、脆性柱の明示及び雑壁耐力の記載、軸組図の併記	
		ペントハウス等	ペントハウス、バルコニー、片持ち梁等の検討	
		第 2 種構造要素	第 2 種構造要素となる柱の検討	
		地下室等	地下室等の検討	
	診断結果の所見		現地調査結果も含め診断結果の所見を詳細に記載 特に、措置を要する事項を明確に記載する	
	耐震補強計画 補強詳細設計	補強方針	診断結果での危険箇所の記載	
		補強材料	補強用の材料種別と強度の記載	
補強図		必要補強部材強度計算 補強位置図と詳細図 仕様書、基準図等		
撤去図		補強時に撤去のある場合の詳細図		
スリット		スリットの種別、深さ、位置、幅、長さ		
全般	責任ある立場の方が報告書を一通り目を通し確認しているか			
	報告書の記載内容に不整合あるいは不適切なものはないか			

※このチェックシートは、診断者が署名及び捺印の上、申込時に添付して下さい。

診断事務所名
担当者

印

事前審査(ヒアリング)のための報告書のチェックシート … (S適用)

ヒアリング時の提出報告書が不備のために、その指摘に時間を取られ、肝心の評価の検討が損なわれることがあります。下記に記載忘れなど指摘の多い項目を記しておきます。提出前に下記チェック項目に記載ページを入れて必ずチェックしてください。 注記：チェックもれは受付できません。

大項目	中項目	小項目	チェック項目	記載ページ
評価申込書	業務受託者、診断者		担当者名の記載	
概要表	診断者名		評価申込書の記載と同じか	
	診断結果		指標の記載(報告書との整合性) 必要のない階等を記載していないか 解法を記載する	
	その他		本体以外(液状化、バルコニー、CB壁、水槽、EXP. J、ターンバックル、バスケットゴール、F11T、木毛板等の天井材)の措置を要する事項を記載	
報告書	建物概要	建物名称	建物名称は正しいか	
		建物高さ	軒高、最高高さ、延べ床面積の記載	
	建物図面	配置図	方位、対象建物をマーク、道路	
		平面図	X・Y方向及びCB壁等の記載	
		立面図	屋上突出部、貯水槽等の記載	
		伏図(右記、平面図で可)	工区分、EXP. Jの位置・間隔、隣接建物の記載 診断対象外には×印記入	
		軸組図	壁開口の位置・寸法等の記載、診断対象外には×印記入	
		部材リスト	設計図利用の場合読みとれる図面にする	
	現地調査結果	設計図との相異の有無	調査結果は調査箇所や詳細が一目で分かる様に写真・図・記号の記載がされているか 錆及び老朽化等について記載がされているか	
	診断方針	判定指標	ISO, qの記載	
		外力分布による補正係数	採用式の明記	
		計算ソフト	バージョン及び評価番号の記載	
		モデル化	全体、ゾーニング、張間、桁行等の図示・記述。	
		屋根及び床面の水平剛性	ゾーニング診断となるものは、ゾーニングの接合部の強度と剛性を確認	
	一般事項	材料強度	コンクリート、鋼材等の記載とその出典	
		床荷重表	仮定荷重、床荷重の記載、単位面積荷重の記載	
		柱軸力	計算方法の記載(立体、支配面積)	
		偏心率・剛性率	設計に用いるFe、Fsによる 一次設計時の層間変形角の確認	
	診断計算	各部計算	設計方針(診断者の考え方)を明記する どの部分の計算かわかる様図示 (高さ・長さ・座屈有効長さ・横補剛位置等) 計算に必要な全情報の記載 (寸法・有効長さ・ボルト種別・径・間隔等)	
	診断結果	電算出力	採用結果が分かる様マーク	
		崩壊メカニズム図	部材耐力図、ヒンジ図、メカニズム時応力図、層のF値の計算、水平耐力集計 荷重増分法による時は、層間変形角を1/50以上とし、荷重変形履歴グラフ	
		二次部材等	片持ち床、片持ち梁、間柱等の検討 風荷重時の検討	
	診断結果の所見		現地調査結果も含め、所見を詳細に記載。特にターンバックル、バスケットゴール等付属物、HTB、F11T、吊り天井の構造等注意到し、措置を要する事項を明確に記載する。また耐震性能が低い場合、理由も記載する	
耐震補強計画	補強方針	診断結果での危険部位と箇所記載		
	補強材料	補強用の材料種別と強度の記載		
補強設計の所見		所見の記載は張間方向・桁行方向・その他に分けて明確に		
補強詳細設計	仕様	工事仕様書及び基準図はあるか		
	補強図	補強箇所と既存箇所との区別、詳細は明確か		

※ このチェックシートは、診断者が署名及び捺印の上、申込時に添付して下さい。

診断事務所名

担当者

印